

1. 2016年度報告

1. 研究のグローバル化推進

- 1) 文化構想学部の英語学位プログラム「国際日本文化論プログラム」を担当する専任教員1名着任（専任教員2名の嘱任決定済み）
- 2) 大学院文学研究科・文学部「中東・イスラーム研究コース」を担当する専任教員2名の嘱任決定
- 3) 大学院文学研究科「国際日本学コース」を担当する専任教員1名（海外在住）を嘱任に向けて交渉
- 4) コロンビア大学教授2名を訪問教授として継続嘱任
- 5) UCLA 上級准教授1名を訪問准教授として継続嘱任
- 6) コロンビア大学研究員1名を訪問主任研究員として継続嘱任
- 7) QS 対象分野拡大のための JA 教員3名の雇用に向けて交渉を開始
- 8) QS 対象分野拡大のための訪問教員1名の嘱任を計画
- 9) 本学教員を UCLA に派遣しての大学院生指導、共同研究、ワークショップの開催
- 10) コロンビア大学とのダブルディグリー・プログラム運営委員会を開催
- 11) 国際担当副学術院長を新たに設置（2016年9月）

2. 学生交流

- 1) UCLA-Waseda リサーチフェローシップ・プログラムによる大学院生1名（3か月以上）の派遣
- 2) Waseda-UCLA リサーチフェローシップ・プログラムによる大学院生5名（1年間2名、3か月以内3名）受入
- 3) Waseda-UCLA トラベル・アワードによる大学院生3名（3か月以内）の受入

3. 研究関連国際イベントの開催

- 1) 本学にて国際シンポジウム「植民地朝鮮における帝国日本の古代史研究」を開催（4月）
- 2) 本学にてコロンビア大学との国際シンポジウム「文化生産者としての〈作者〉」を開催（7月）
- 3) UCLA にて国際ワークショップ「江戸ワークショップ」を開催（8月）
- 4) 本学にて国際シンポジウム「雑誌に見る占領期—福島鑄郎コレクションをひらく」を開催（9月）
- 5) 本学にて国際シンポジウム「『半島の藝術家たち』と『半島の春』における言語帝国主義と沈黙のアポリア」を開催（10月）
- 6) 本学にて国際学会「日仏演劇学会〈越境する—翻訳・翻案・異文化交流〉」を開催（10月）
- 7) 本学にて国際ワークショップ「人文学の国際化と研究・教育・就職——日本学を事例に」を開催（11月）
- 8) バーミンガム大学、本学演劇博物館と連携しての、シェイクスピア没後400年関連国際イベントを本学にて開催。一連の企画で、本学にて講演会と対談「『シェイクスピアの翻訳を考える』—松岡和子氏とダニエル・ガリモア氏による翻訳の現状と展望」を開催（12月）
- 9) 本学にて国際シンポジウム「人文学の再建とテキストの読み方—津田左右吉をめぐって—」を開催（2017年1月）

- 10) 本学にて講演会「フランク・ホーレー、人物と業績に関する研究―遺産資料の再照明」を開催(1月)
- 11) フランス・INALCOにて国際シンポジウム「源氏物語シンポジウム」を開催(3月)
- 12) コロンビア大学にて国際シンポジウム「Rethinking Authorship in East Asia and Europe 東アジアおよびヨーロッパにおける<作者> 再考 Authorship in Japan: History and Practice 日本における<作者> 歴史と実践」を開催(3月)
- 13) UCLAにて国際シンポジウム「Empire of Others」を開催(3月)
- 14) 2015年度に実施した朝河貫一シンポジウムの書籍(『朝河貫一と日欧中世史研究』吉川弘文館)を刊行(3月)
- 15) 2017年度開催予定の「狂言のタベ@LA」公演を中心としたワークショップ等の開催を準備

4. 学術院の改革

- 1) 文学研究科「中東・イスラーム研究コース」の入試を実施
- 2) 文化構想学部英語学位プログラムのAO入試を実施
- 3) 文学部 中東・イスラーム研究コースの2018年度開設に向けて準備
- 4) 大学院文学研究科「国際日本学コース(Global Japanese Literary and Cultural Studies, 略称Global-J)」の開設を決定(2018年9月)
- 5) 文化構想学部・文学部において英語外部試験(4技能型)を利用する入試を実施
- 6) 文化構想学部・文学部における選択英語科目の見直しに着手。
- 7) 文化構想学部・文学部で2017年度からの「副専攻制度」導入を決定。

5. 制度・仕組の創設

- 1) JA制度の導入検討
- 2) 2017年度のクォーター科目開始に向けて準備

6. 連携の模索

- 1) 中国の大学(5大学)との箇所間協定を締結
- 2) 北米および欧州の有力大学と大学院レベルの教育・研究についての連携を協議

7. その他

- 1) 英語学位プログラム準備のための助教(2名)採用
- 2) 総合人文科学研究センターのWebジャーナルであるRILAS Journalに教員学生からの多数の投稿があった。文学研究科紀要とともに研究成果の国際的発信の場として機能を果たしている。

2. 2017年度計画

1. 研究のグローバル化推進

- 1) 文化構想学部の英語学位プログラム「国際日本文化論プログラム」を担当する専任教員2名を嘱任
(2017年9月。専任教員1名は2016年9月に着任)
- 2) 大学院文学研究科・文学部「中東・イスラーム研究コース」を担当する専任教員2名を嘱任(2017年4月)
- 3) 大学院文学研究科「国際日本学コース」を担当する専任教員1名(海外在住)の嘱任に向けて交渉を継続(2018年度嘱任予定)
- 4) コロンビア大学教授2名を訪問教授として継続嘱任
- 5) コロンビア大学准教授1名を訪問准教授として新規嘱任
- 6) UCLA 上級准教授1名を訪問准教授として継続嘱任
- 7) 南カリフォルニア大学准教授1名を訪問准教授として新規嘱任
- 8) QS 対象分野拡大のためのJA教員3名の雇用に向けて交渉継続
- 9) QS 対象分野拡大のための訪問教員1名の嘱任を計画
- 10) 研究・教育のグローバル化推進のため本学術院教員をスタンフォード大学に派遣
- 11) 本学教員をUCLAに派遣しての大学院生指導、共同研究、ワークショップの開催
- 12) 本学術院教員をサマーセッションプログラム視察に派遣(北米および欧州)

2. 学生交流

- 1) UCLA-Waseda リサーチフェローシップ・プログラムによる大学院生2名の派遣
- 2) Waseda-UCLA トラベル・アワードによる大学院生1名の受入
- 3) コロンビア大学とのダブルディグリー・プログラムによる大学院生の派遣、受入
- 4) 文化構想学部の英語学位プログラム「国際日本文化論プログラム」のJS学生のサマーセッションプログラムによる短期留学を実施

3. 研究関連国際イベントの開催

- 1) UCLAにて「狂言のタベ@LA」公演を中心とした国際ワークショップ等の開催
- 2) 本学でのコロンビア大学教授による講演会の開催
- 3) 本学でのコロンビア大学准教授と本学術院教授による対談形式の講演会の開催
- 4) 海外有識者、トップ研究者招聘支援による講演会の開催
- 5) 本学での国際ワークショップ「検閲と日本語文学をめぐるワークショップ」開催
- 6) 本学での国際ワークショップ「日本「文」学史」第3回ワークショップ」を開催
- 7) 「国際日本学」研究の、歴史、演劇・映像分野への拡大(国際シンポジウムの開催)
- 8) UCLA およびコロンビア大学における国際シンポジウムを開催
- 9) 本学にて第9回東アジア人文学フォーラムを開催

4. 学術院の改革

- 1) 文学研究科「中東・イスラーム研究コース」を開設
- 2) 文化構想学部英語学位プログラム「国際日本文化論プログラム」を開設
- 3) 文学研究科「国際日本学コース」の入試を実施

- 4) 文化構想学部・文学部で「副専攻制度」を導入
- 5) 文化構想学部・文学部で、一部科目でクォーター制度を導入
- 6) 文化構想学部・文学部における外国語科目改革を検討
- 7) 文化構想学部・文学部における選択英語科目の見直しを検討
- 8) 大学院改革に向けて検討を開始

5. 制度・仕組の創設

- 1) JA 制度の導入に向けて準備

6. 連携の模索

- 1) 北米および欧州の大学と連携しての大型共同プロジェクトへの応募を検討
- 2) JSPS の大型科研費に応募（イギリスとの連携）

以上